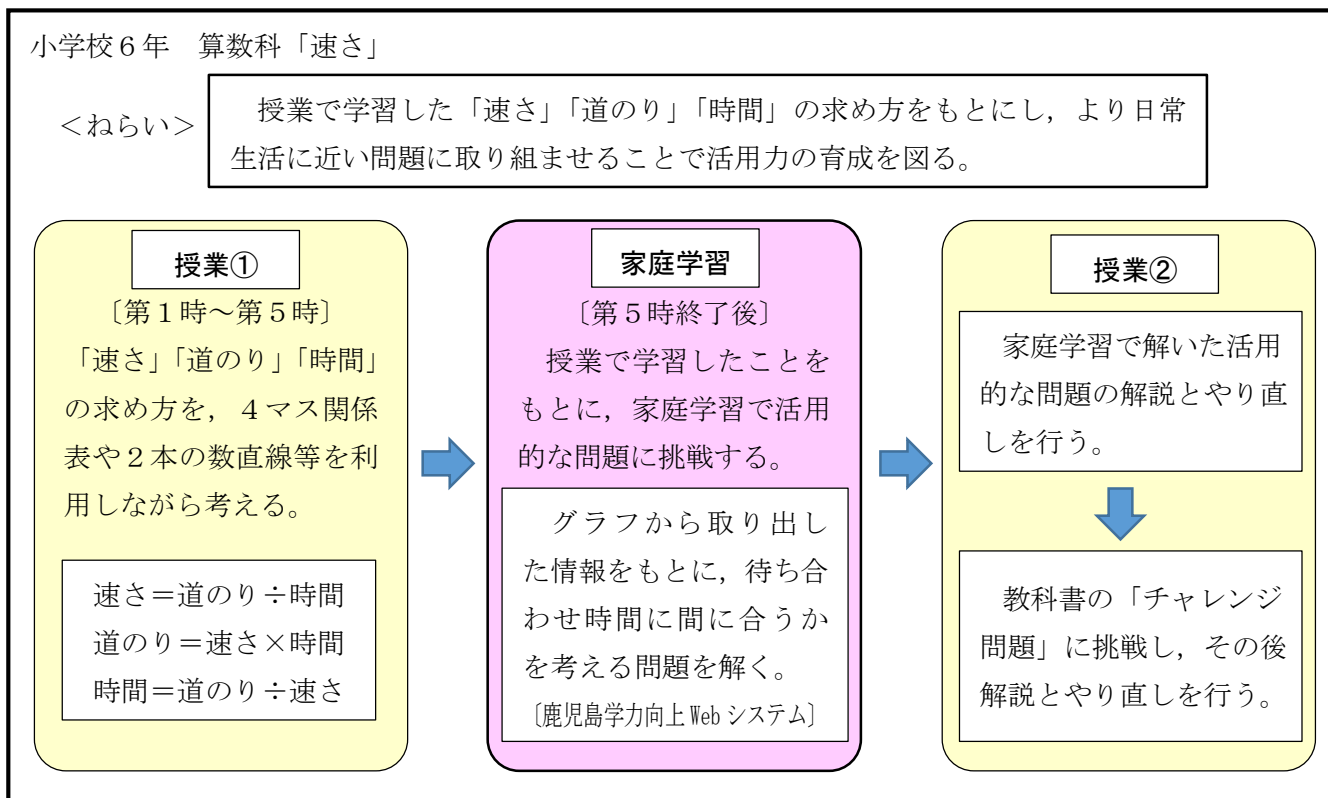
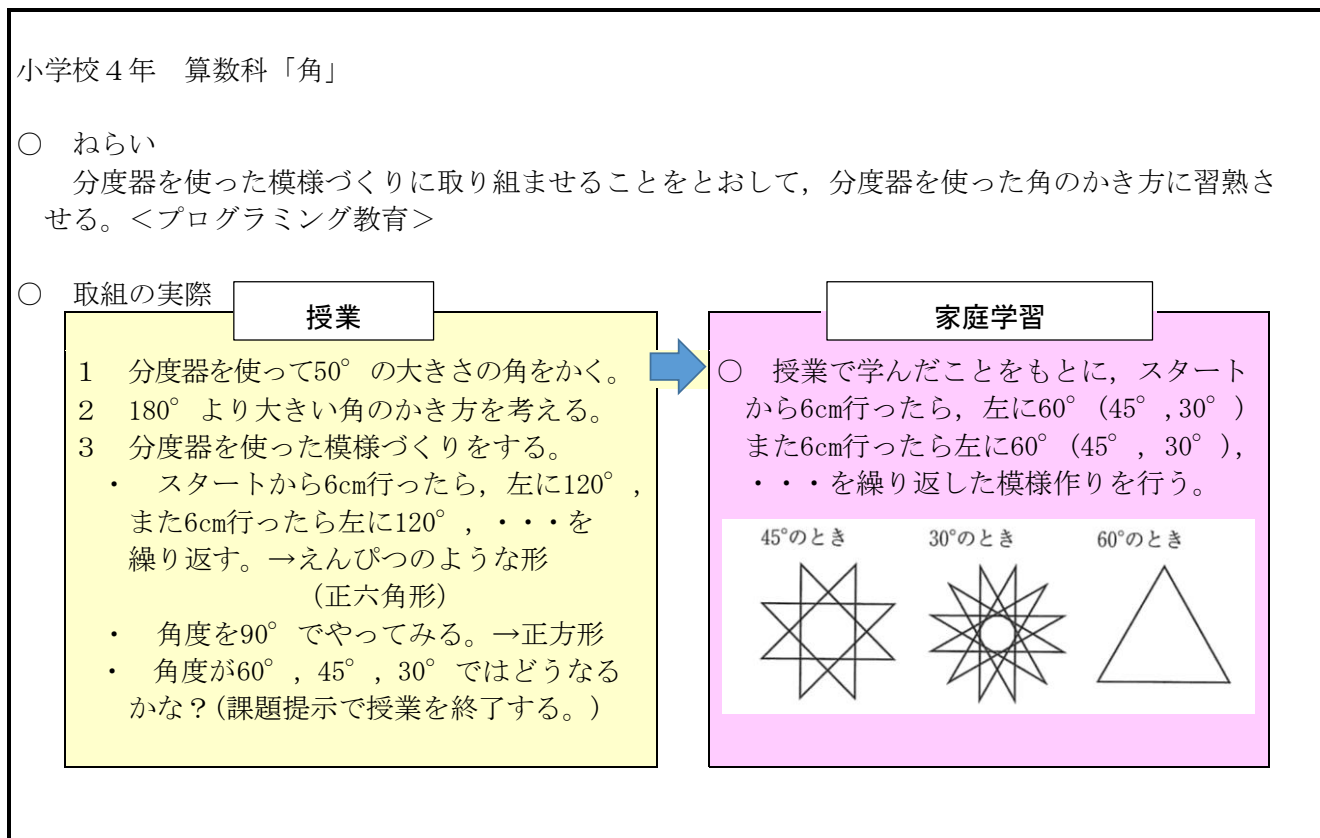


# 平成 30 年度「家庭学習質的改善」事例

## 【C】既習内容活用型 ①〔佐々木小学校〕



## 【C】既習内容活用型 ②〔国分小学校〕



## 【C】 既習内容活用型 ③〔日当山小学校〕

小学校4年 算数科「わり算のひっ算・垂直と平行」

### ○ 授業

- ・わり算の筆算の仕方について、計算の手順を踏まえて学習する。また、表記の仕方や余りの出し方等、筆算を行う際に注意するポイントも全体で確認する。
- ・垂直と平行、それぞれの定義と作図の仕方を学習する。その中で、作図する際の留意事項を伝え、スムーズに垂直及び平行な直線が描けるように指導する。



### ○ 家庭学習

**割り算の筆算**

たて算  
かいてる  
よひく  
おろす

164  
÷3  
=54  
余り2

100 ÷ 3 → 33 余り1  
60 ÷ 3 → 20 余り0  
14 ÷ 3 → 4 余り2

筆算のしくみについて学習しました。  
①位取りの考え方ももとに、まわり(百のわり、十のわり、はら)ごとにわけてやること。②おろすものは、一つ下の位の大おろしはらすこと。筆算は自然に行っていることも学びました。  
週末の宿題に算数ブックもわけています。

**こんな学習をしています。**

★平行

先週、垂直に引き続き、三角定規を用いた作図を行っています。

今週末の宿題にも、平行を書く方法を1枚画用紙にのりつけて、たくさん練習して、慣れてほしいです。

算数は正しい測る力も育つので、定規を使えば、直線を引いたり、角度を測ったり、用具の使い方も、「まわりの声」も聞いていられると助かります。

ポイント：直線を引くときは、スライドさせず、エレベーター方式。

### 【家庭学習充実のための取組】

- ・学習した内容について、学級通信で保護者に知らせ、現在どのような学習に取り組んでいるのか周知する。
- ・学習内容の伝達ばかりでなく、児童がつまずきやすいポイントや問題を解く際のヒント等も記載し、家庭で保護者と一緒になって学習に取り組めるような情報も提供している。
- ・家庭での学習について、保護者への協力を呼びかけることは多いが、実際にどのような点に気をつけて学習の様子を見とればよいか保護者にうまく伝わらないことも考えられる。しかし、こうした取組を行うことで児童ばかりでなく、保護者とも連携しながら家庭学習の充実を図ることができる。

## 【C】 既習内容活用型 ④〔国分中学校〕

中学校2年 社会科「中国・四国地方」

### 資料を活用して考える授業を踏まえた、“考える”家庭学習の在り方

#### 授業

(都市と農村の変化と人々の暮らし③-交通網の発展による地域の変化)



- 本時では3つの資料をもとに、中国・四国地方の山間部で移動販売車が導入されたり、廃校水族館が開館したりした理由を「人口減少・過疎化」の視点から考察させた。

#### 家庭学習

- 本時で学習した内容を、郷土である霧島市や鹿児島県に置き換え、「鹿児島県や霧島市で人口減少を防ぐために行われている取組はないか」、各自で調査させ、さらに「自分ならどのような政策を立てるか」まで意見を書かせた。その“考える”時間が次時へ動態地誌的に接続していくと考えられる。

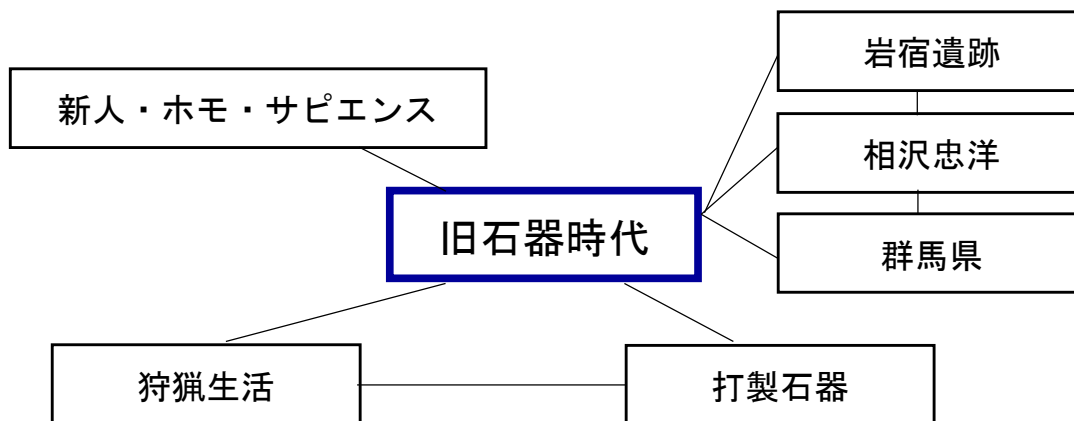
## 【C】既習内容活用型 ⑤〔牧之原中学校〕

中学校1年 社会科「旧石器時代」

○ ねらい： 授業で学習した内容を自分で分かりやすくまとめる。

授業

学習した重要語句をマッピングする。



家庭学習

課題： 授業でマッピングした図を文章で記述し、時代の特色を説明する。

今回は、旧石器時代に関するマッピングだが、アメリカ合衆国であったり、近畿地方であったり、テーマとする課題に関連したものを幾つあげられるか取り組むことで、思考・判断・表現する力を高めたい。